

冬を彩る色鮮やかな花 花き園芸組合が冬の花を贈呈

2月14日、高千穂町花き園芸組合（土持陽宏組合長）が町長室を訪れ、甲斐宗之町長と馬原英治議員へ色鮮やかなランキュラスやスイートピー、ダリアをあしらった花束を贈呈しました。

土持組合長は「例年になく寒い年。燃料高騰のなか燃料をたき、生産者が一生懸命がんばって最高の花ができた」とあいさつ。「物価高騰で球根の価格も上がっていることから、PRやご支援をお願いします」と話しました。



楽しみながら魅力を知る 高千穂いっチャがかるた完成

2月14日、高千穂郷土かるた協会（馬原美和会長）が制作した「高千穂いっチャがかるた」が完成し、お披露目の大会が、高千穂神社神楽殿で行われました。

地域おこし協力隊の甲斐有香さんが、町内の魅力を詰め込んだかるたを作ろうと、町内の有識者らとともに協会を立ち上げ、読み札と絵札のデザインを募集。多くの作品の中から選考委員によって決定し、1年程かけプロジェクトを完成させました。



地域の伝統行事 鬼の目はしらかし

2月9日、荒立神社で鬼の目はしらかし（本組降神会佐藤仁保会長）が行われました。

青竹の先端を熱し石にたたきつけ、破裂音を鳴らすことが邪気払いとされ、無病息災や家内安全を願う伝統行事で、大きな破裂音と真っ白な煙を上げるには、破裂直前まで竹を熱することがポイント。見極めを間違えると熱している最中やたたく直前に破裂するため、成功する度に拍手と歓声が上がりました。



紀元2685年（皇紀2685年）を迎え 建国記念日奉祝式典の斎行

2月11日、建国記念の日を祝う式典が、高千穂神社（後藤俊彦宮司）にて行われました。

神事では、神楽の奉納や町長を始め、参列者が御神前に玉串を捧げました。

式典後、後藤宮司は「神武天皇が即位され2685年。これまで長く続いている国は他にない。子どもたちに日本の歴史を学んでもらいに少しでも国を愛する気持ちをもちもらえれば」とあいさつしました。



天鈿女命 甲斐 樹里	猿田彦命 甲斐 健太	木花咲耶姫 佐藤 凛	神武天皇 假屋 雅敬	吾平津姫 押方 歌多	瓊瓊杵尊 下田 大樹
---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------

2月11日、第40回神話の高千穂建国まつり（同実行委員会 菅敬祐実行委員長）が開催されました。

「神々のパレード」には、神様コンテストで選ばれた6人の神様をはじめ、八百万の神々に扮した町民ら22団体約550人が、高千穂神社から榑神神社までの約1.4kmをパレード。沿道に訪れた地域住民や観光客などにぎわいました。また、メイン会場の役場駐車場では、うどんやからあげ、高千穂牛コロッケなど22店舗が出店。ダンスなどのステージパフォーマンスや玉入れ、ボルダリング体験などが行われ、多くの来場者を楽しませていました。

